

平成30年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年2月13日

上場会社名 株式会社エム・エイチ・グループ 上場取引所 東  
 コード番号 9439 URL http://mhgroup.co.jp/  
 代表者 (役職名)代表取締役兼執行役員社長 (氏名)朱峰 玲子  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役兼執行役員管理本部長 (氏名)家島 広行 (TEL)03(5411)7222  
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月13日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年6月期第2四半期の連結業績(平成29年7月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年6月期第2四半期	1,081	14.5	19	423.5	19	-	11	-
29年6月期第2四半期	945	7.9	3	△90.5	△9	-	△24	-

(注) 包括利益 30年6月期第2四半期 11百万円 (-%) 29年6月期第2四半期 △24百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年6月期第2四半期	1.04	-
29年6月期第2四半期	△2.17	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年6月期第2四半期	1,602	598	37.3
29年6月期	1,363	586	43.0

(参考) 自己資本 30年6月期第2四半期 598百万円 29年6月期 586百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年6月期	-	0.00	-	0.00	0.00
30年6月期	-	0.00	-	-	-
30年6月期(予想)	-	-	-	-	-

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成30年6月期の期末配当につきましては、現時点で未定であります。

3. 平成30年6月期の連結業績予想(平成29年7月1日～平成30年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,000	7.4	38	-	37	-	20	-	1.77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年6月期2Q	11,332,100株	29年6月期	11,332,100株
② 期末自己株式数	48株	29年6月期	48株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	11,332,052株	29年6月期2Q	11,332,052株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用情勢や所得環境、企業収益に改善傾向が見られ、緩やかな回復基調にあるものの、米国や欧州の政治情勢の不安定さや地政学的な不安の高まりなど、不確実性が増しており、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが属する美容業界におきましても、先行きの不安感などに起因する顧客の節約志向は少なからず影響を及ぼしており、それは来店周期の長期化、低価格サロンの増加による店舗間競争の激化等を招いております。また、美容業界はオーバーストア状態にあるなかで美容専門学校生は減少傾向にあり人材確保が業界全体の課題であり、経営環境は厳しい状況にあります。しかしながら一方では、男性顧客の美容室の利用率の増加、アジアをはじめとする海外での日本の美容サービス・商品に対するニーズは高まっております。そして近年髪に悩みを抱える顧客は増加傾向にあり、その期待に応えることができる信頼と専門性を備えたサロンの需要は増加することが見込まれます。

このような状況のもと、当社グループは、安易な安売り競争に走ることなく、従来通り教育により高い技術を有するスタッフを育成し、質の高いサービスを提供し続けることに重点を置いております。選別消費の傾向が強まるなか、当社がターゲットとする顧客層においては、ヘアケアサービス、ホームケア製品やヘアデザインの再現性を高めるスタイリング製品の購入件数増加など顧客単価は着実に上昇しております。しかし今後収益性を高める上では、リピート回数を増やし顧客として定着する割合を向上させなければなりません。こちらは、従前よりSPC（サービス・プロフィット・チェーン）のフレームワークに基づき、従業員満足度と顧客満足度を同時に高めることにより店舗の収益力を更に向上させるプログラムに取り組んでおり、今後もこれを継続してまいります。そして近年当社グループの新たな取り組みであるメンズ専門ヘアサロンは、既存のモッズ・ヘアサロンに比べ顧客単価は低いものの新たな顧客層の獲得につながっております。このメンズ専門ヘアサロンは直営サロン・BSサロンを問わず需要が高まることが見込まれます。また、業界全体においては美容師の人材不足により大型サロンを維持できず閉店するサロンや後継者不在のため閉店するサロンが増加しております。これは当社のBSサロンにおいても例外ではありません。当社グループのBSサロン運営事業においては、既存BSサロンの健全経営をサポートするとともに、業界を取り巻く環境を見極め戦略的な新規出店を実現することが重要な課題であります。また、前連結会計年度よりモッズ・ヘアサロン運営事業の再建に注力しており、直営サロン運営事業においてはその効果が表れております。他方、当期より既存コンテンツ強化策の一つとしてWEB通販の販路拡大を図っており、売上高は積み上がっておりますが、収益面においては広告宣伝費等の先行コストの回収途上の段階であります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,081,969千円（前年同期比14.5%増）、営業利益19,467千円（前年同期比423.5%増）、経常利益19,503千円（前年同期は、経常損失9,937千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益11,836千円（前年同期は、親会社株主に帰属する四半期純損失24,551千円）となりました。

セグメント別の状況については以下のとおりであります。

#### （直営サロン運営事業）

日本全国に展開するBSサロン（フランチャイズサロン）のフラッグシップサロンとして、首都圏主要地域を中心に直営サロン15店舗（モッズ・ヘアサロン14店舗、その他1店舗）を展開しております。当第2四半期連結累計期間におきましては、平成29年8月にモッズ・ヘア自由が丘店を閉店いたしました。

当第2四半期連結累計期間におきましては、前期より取り組んでいるモッズ・ヘアサロン運営事業の再建策が売上高の伸び、収益性の改善に表れるとともに、不採算店舗であったモッズ・ヘア自由が丘店を閉店した結果、前年同期に比べ増収増益となりました。

直営サロン運営事業の当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高601,178千円（前年同期比8.7%増）、セグメント利益7,106千円（前年同期はセグメント損失19,306千円）となりました。

#### （BSサロン運営事業）

「モッズ・ヘア」では、本部、加盟店という従来のフランチャイズ関係ではなく、共に一つのブランドをシェアするという意味で、ブランドシェアサロン、BSサロンと呼んでおります。当第2四半期連結累計期間において国内では閉店1店舗、海外におきましては、韓国ではオープン1店舗、閉店2店舗、中国では4店舗をオープンいたしました。その結果、当第2四半期連結会計期間末日現在におきまして、国内51店舗、韓国22店舗、台湾3店舗及び中国22店舗の計98店舗となっております。

当第2四半期連結会計期間より新体制のもと国内B Sサロンの減少に歯止めをかけるべく既存店のフォローと新規開拓に注力しております。また、当期より既存コンテンツ強化策の一つとしてWEB通販における販路の拡大を図っております。現時点においては売上高を積み上げておりますが、広告宣伝費等の先行コストの回収途上の段階で収益化には至っておりません。

B Sサロン運営事業の当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高307,711千円（前年同期比28.1%増）、セグメント利益90,942千円（前年同期比13.8%減）となりました。

（ヘアメイク事業）

当社は、「モッズ・ヘア」の原点であるフランス・パリのスタジオワーク専門のヘアメイクチームのプロフェッショナル精神を引き継いだ「モッズ・ヘア」ヘアメイクチームを有しております。

当社のヘアメイクチームは、ヘアメイクアーティストのエージェンシーとして「パリコレクション」や「東京コレクション」などへの参加や、CM・ファッション雑誌など年間2,000件を超える媒体を手掛けるなど、国内及び海外で高い評価を得ております。

ヘアメイク事業におきましては、スタジオ部門は好調に、ブライダル部門は堅調に推移した一方、メディア部門における季節変動あるいは一時的な外的要因による減収を補うには至らず、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高192,113千円（前年同期比6.2%増）、セグメント利益14,339千円（前年同期比11.7%減）となりました。

（美容室支援事業）

当社グループでは、日本国内でのモッズ・ヘアサロンの事業展開を通じて、様々なスケールメリットが創出されます。それをサービス化したクレジット手数料軽減サービス、株式会社ティビィシー・スキヤットとの提携による美容サロン向けPOSレジ顧客管理システムを一般のサロンに提供する等の美容室支援事業を行っております。

美容室支援事業の主力であるクレジット手数料軽減サービスの契約件数、取扱高は堅調に推移しており、加えて美容サロン向けPOSレジ顧客管理システムの販売も寄与し、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高37,027千円（前年同期比2.4%増）、セグメント利益12,880千円（前年同期比14.1%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ239,048千円増加し、1,602,613千円となりました。主な要因としましては、現金及び預金の増加30,169千円、未収入金の増加192,183千円、有形固定資産の減少13,801千円などによるものであります。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末の負債につきましては、前連結会計年度末に比べ227,156千円増加し、1,004,400千円となりました。主な要因としましては、未払金の増加204,626千円、買掛金の増加12,795千円、未払消費税等の増加12,409千円などによるものです。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ11,890千円増加し、598,212千円となりました。主な要因としましては、親会社株主に帰属する四半期純利益11,836千円などによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ30,169千円増加し、248,481千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果得られた資金は47,329千円（前年同四半期は得られた資金34,698千円）となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益18,149千円、減価償却費18,865千円、売上債権の増加額31,186千円、仕入債務の増加額12,795千円、未払消費税等の増加額12,409千円などによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は10,215千円(前年同四半期は得られた資金3,564千円)となりました。これは主に差入保証金の差入による支出6,794千円、有形固定資産の取得による支出3,170千円などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は7,000千円(前年同四半期は使用した資金84,042千円)となりました。これは社債の償還による支出7,000千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年6月期の通期の業績予想は、平成29年8月18日付「平成29年6月期 決算短信」にて公表いたしました業績予想から変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	228,311	258,481
受取手形	408	486
売掛金	122,554	141,803
商品	81,170	83,125
未収入金	338,230	530,414
その他	52,477	70,554
貸倒引当金	△3,737	△3,890
流動資産合計	819,415	1,080,975
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	333,402	337,051
減価償却累計額	△208,813	△219,783
建物及び構築物(純額)	124,588	117,267
工具、器具及び備品	85,617	78,027
減価償却累計額	△43,060	△41,951
工具、器具及び備品(純額)	42,556	36,075
その他	540	540
減価償却累計額	△403	△403
その他(純額)	137	137
有形固定資産合計	167,282	153,480
無形固定資産		
のれん	117,336	109,439
その他	2,816	2,384
無形固定資産合計	120,152	111,824
投資その他の資産		
投資有価証券	5,306	5,361
長期貸付金	65,698	65,698
関係会社株式	9,438	9,438
差入保証金	167,423	174,916
リース投資資産	50,903	45,091
その他	21,660	19,727
貸倒引当金	△66,198	△66,198
投資その他の資産合計	254,231	254,035
固定資産合計	541,666	519,340
繰延資産		
社債発行費	2,483	2,297
繰延資産合計	2,483	2,297
資産合計	1,363,565	1,602,613

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	12,404	25,200
1年内償還予定の社債	14,000	14,000
未払金	442,446	647,072
未払費用	34,747	35,567
未払法人税等	8,259	8,113
未払消費税等	15,666	28,076
ポイント引当金	3,499	4,013
賞与引当金	1,837	-
その他	25,414	22,116
流動負債合計	558,274	784,160
固定負債		
社債	86,000	79,000
長期未払金	33,752	33,752
受入保証金	74,819	81,819
資産除去債務	11,714	11,757
退職給付に係る負債	7,483	7,910
役員退職慰労引当金	5,200	6,000
固定負債合計	218,968	220,239
負債合計	777,243	1,004,400
純資産の部		
株主資本		
資本金	500,000	500,000
資本剰余金	129,496	129,496
利益剰余金	△43,401	△31,565
自己株式	△13	△13
株主資本合計	586,081	597,917
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	240	295
その他の包括利益累計額合計	240	295
純資産合計	586,322	598,212
負債純資産合計	1,363,565	1,602,613



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年12月31日)
売上高	945,128	1,081,969
売上原価	694,783	754,164
売上総利益	250,345	327,804
販売費及び一般管理費	246,626	308,337
営業利益	3,718	19,467
営業外収益		
受取利息	96	4
為替差益	754	88
その他	717	311
営業外収益合計	1,568	405
営業外費用		
支払利息	224	181
社債発行費償却	-	186
貸倒引当金繰入額	15,000	-
その他	-	2
営業外費用合計	15,224	369
経常利益又は経常損失(△)	△9,937	19,503
特別損失		
関係会社株式評価損	5,775	-
固定資産除却損	-	722
店舗閉鎖損失	-	632
特別損失合計	5,775	1,354
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△15,713	18,149
法人税、住民税及び事業税	8,838	6,313
法人税等合計	8,838	6,313
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△24,551	11,836
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△24,551	11,836

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△24,551	11,836
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	452	54
その他の包括利益合計	452	54
四半期包括利益	△24,099	11,890
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△24,099	11,890
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△15,713	18,149
減価償却費	20,698	18,865
のれん償却額	7,896	7,896
有形固定資産除却損	-	722
貸倒引当金の増減額(△は減少)	20,795	152
ポイント引当金の増減額(△は減少)	7	513
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	800	800
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△580	427
賞与引当金の増減額(△は減少)	-	△1,837
受取利息及び受取配当金	△171	△4
支払利息	224	181
投資有価証券売却損益(△は益)	△237	-
受入保証金の増減額(△は減少)	△15,240	7,000
関係会社株式評価損益(△は益)	5,775	-
売上債権の増減額(△は増加)	△6,326	△31,186
たな卸資産の増減額(△は増加)	△7,086	△1,954
仕入債務の増減額(△は減少)	5,931	12,795
未払消費税等の増減額(△は減少)	3,871	12,409
リース投資資産の増減額(△は増加)	5,264	5,530
その他	18,466	5,424
小計	44,376	55,886
利息及び配当金の受取額	177	4
利息の支払額	△224	△190
法人税等の支払額	△9,631	△8,371
営業活動によるキャッシュ・フロー	34,698	47,329
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,027	△3,170
投資有価証券の売却による収入	720	-
差入保証金の差入による支出	△1,174	△6,794
差入保証金の回収による収入	9,240	-
貸付けによる支出	△6,388	-
貸付金の回収による収入	2,195	-
その他	-	△251
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,564	△10,215
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の返済による支出	△50,000	-
社債の償還による支出	-	△7,000
配当金の支払額	△34,042	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△84,042	△7,000
現金及び現金同等物に係る換算差額	385	55
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△45,394	30,169
現金及び現金同等物の期首残高	323,746	218,311
現金及び現金同等物の四半期末残高	278,352	248,481

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年7月1日至平成28年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	直営サロン 運営事業	B Sサロン 運営事業	ヘアメイク 事業	美容室支援 事業	計		
売上高	553,314	240,152	180,895	36,146	1,010,509	△65,380	945,128
セグメント利益 又は損失(△)	△19,306	105,486	16,241	11,292	113,713	△109,994	3,718

(注) 1. セグメント利益の調整額△109,994千円には、棚卸資産の調整額151千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△110,146千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社的一般経費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成29年7月1日至平成29年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	直営サロン 運営事業	B Sサロン 運営事業	ヘアメイク 事業	美容室支援 事業	計		
売上高	601,178	307,711	192,113	37,027	1,138,030	△56,061	1,081,969
セグメント利益	7,106	90,942	14,339	12,880	125,268	△105,800	19,467

(注) 1. セグメント利益の調整額△105,800千円には、棚卸資産の調整額△5千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△105,795千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社的一般経費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。